

2020年5月15日 追加報告版

福岡における文化芸術関係者の 新型コロナウイルスの影響に関する アンケート調査 追加報告

大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員／文化生態観察)

古賀弥生(九州産業大学 地域共創学部 教授／アートサポートふくおか)

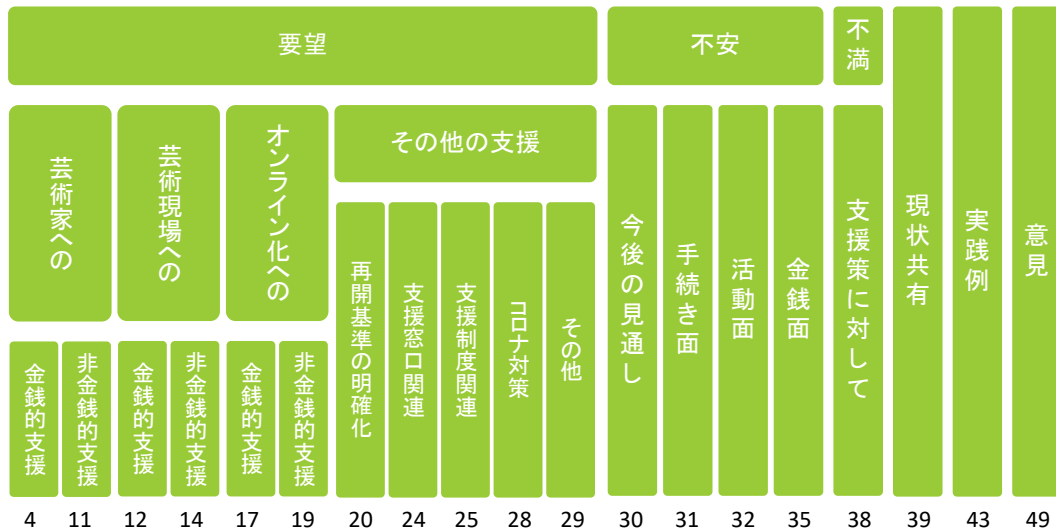
長津結一郎(九州大学大学院芸術工学研究院助教)

1

アンケート調査の自由記述

2

自由記述の傾向



3

芸術家への金銭的支援の要望[1/7]

- コロナ終息時まで 一定額の支援
- 単発支援ではなく継続的に見込まれる支援
- イベント損失分の補償があると助かります
- 全国のエンタメ系関係者全員に対しての補償給付金
- 国は下より地元の芸術家を守る自治体からの支援金。
- とにかく早く給付をお願いします。生きていけません。
- 先行きが見えませんが、早急に金銭面での支援を必要としています。
- 支援金の条件に不満がある。本当に困っている人にはきちんと話して渡すべき。
- アート、文化、イベントへの経済的支援をヨーロッパなみに強化して頂きたいです。
- 音楽の仕事をしている人には、貸付でなく返済不要の10万円以上、毎月給付をしてほしい。

4

芸術家への金銭的支援の要望[2/7]

- 実演家の収入をなんとかしてあげたい。メンタルのフォローにオンラインミーティングは多数開催。
- 仮に仕事が再開しても、報酬を受け取るまでに時間がかかるので、持続給付金をお願いしたいです。
- 無観客配信ライブの相談・企画に取り組んでいる フリーランスのアーティストへの金銭的な支援が必要
- 文化芸術は今の人々にとって大切な事だと思います。今後のためにも、活動再開へ向けた支援をお願いします。
- 今の家賃保証額では足りないので、不動産管理会社(大家)への家賃40%減額指示と、固定資産税支払い免除。光熱費の全額保証。
- 関東大阪の仲間との企画について 見通しが立たず苦慮しています 中止になった企画などに対する具体的な支援、助成などがあればと思います
- 趣味でやっている身としては、支援されると後々自由が縛られる気がして怖い。ただ、それで生計をたてている個人、事業には補填してあげて欲しい。
- 地域のアーティストへの支援が必要だと思います。事業や企画が中止・延期となり、お金を払ってあげられない。こんな時こそ、将来への投資ができれば良いのに！

芸術家への金銭的支援の要望[3/7]

- 私は企画制作で他の仕事もあり何とかなるが、出演者は一切の仕事を失っている状態なので心が痛む。やはり、アーティスト自体への直接的な支援が大切だと感じる。
- (要望) ・To Do キャンペーンより今の支援を ・福岡県としての文化産業支援策及び補助金。伴って、市町村への文化産業支援及び補助金の指示。
- 集客型のイベントを有料のオンライン配信にする準備を進めています。多くの文化関係者は復職ともに先行きが見えない状態で、当面の生活維持に対する至急の支援が必要です。
- コンサートやイベントなどを1日も早く再開出来るよう政府に強く要望しなければ、エンターテインメント業界が崩壊してしまいます。携わる人間も企業も、もう限界。一刻の猶予ありません。
- 音楽や映画の支援は進んでいるように思いますが文化芸術、伝統文化、情操教育も大切です。音楽は支援により以前より収益が上がっている個人、団体、会場があると聞きます。しっかりと精査をお願いします。
- ライブハウス、音響の仕事の方は本当に困っていらっしゃいます！ せめて家賃をどうにかしてあげてほしいです！ライブハウスが失くなると、私達もやる場所がなくなります。よろしく願いいたします！
- 前の項目にも記入しましたが、アーティストへの支援が絶対的に不足しています また、休業を要請して保証金を支払う業種が、文化芸術分野では非常に狭いです。文化活動を支えている職種を行政はもっと把握して欲しい。

芸術家への金銭的支援の要望[4/7]

- コロナ終息時まで 一定額の支援
- 政府や行政から自粛を要請される一方で、補償がない、もしくは少ない、そしてその支給が速やかでないことに不満を持っています。状況が長期化していくようなら、単回支援だけでなく、長期的な支援を求めます。このままでは文化関係者が生き延びることが経済的に困難です。特に国の施策を求めますが、不足する/遅滞する面を地方自治体にも求めます。
- 文化芸術は今の人々にとって大切な事だと思います。今後のためにも、活動再開へ向けた支援をお願いします。
- 趣味でやっている身としては、支援されると後々自由が縛られる気がして怖い。ただ、それで生計をたてている個人、事業には補填してあげて欲しい。
- 福岡県は全国的に見てもコロナ対策、施策等積極的にされていると思います。その中で、これは県の財源にも限りがある上、私たちのような音楽家や芸術家のみならず様々な分野の方々に支援をしないといけないので仕方ないことですが、自粛させるなら金銭的援助がセットということは当たり前です。現状、以前よりは金銭的な援助の取り組みが具体化してきましたが、自粛させられるストレスよりも、金銭的な不安の方が圧倒的に大きいです。可能ならば一律10万円給付のような、分け隔てなく均等に金銭的な支援をしていただけるとありがたいです。
- 地域のアーティストへの支援が必要だと思います。事業や企画が中止・延期となり、お金を払ってあげられない。こんな時こそ、将来への投資ができれば良いのに！

芸術家への金銭的支援の要望[5/7]

- 政府や行政から自粛を要請される一方で、補償がない、もしくは少ない、そしてその支給が速やかでないことに不満を持っています。状況が長期化していくようなら、単回支援だけでなく、長期的な支援を求めます。このままでは文化関係者が生き延びることが経済的に困難です。特に国の施策を求めますが、不足する/遅滞する面を地方自治体にも求めます。
- 将来が見通せず焦ります。給付金などの支援も遅く、わかりづらい。文化芸術は生きて行く上に必要だということをもっとアピールしたい。芸術の発表は今日明日にできる事ではなく、練習準備に長い時間が必要なので終息が見えない今、何も計画できず、教室の家賃支払いをはじめ、とても切迫している。現在の減収と将来の活動の場の両方について支援が欲しい。
- 設備購入(例えばオンライン配信機器など)も含めて、アーティストや芸術団体が自由に使える支援金(助成金)がほしいです。これまでの芸術助成金は、助成金の使用用途が制限されすぎて不便な部分もありましたので、多くのアーティストが損害を受けたこの機会に、もっと様々な用途に使える柔軟な助成金制度に変更して頂きたいです。現状の助成金制度の内容を見直すだけでも大いに助かります。
- 今回の件でまったく収入がなくなった 業種の方々もたくさんおられます。フリーランスの音楽家もその中に入ります。特に演奏会などは三密に全てあてはまりますのでコロナが終息するまで絶対再開は無理でしょう。演奏会がすべてキャンセルとなっている間は収入がゼロのままです。ということは生活ができないということです。文化、芸術を存続していただけますよう、フリーランスでも音楽家として引き続き生計たてていけますようご理解いただきご支援を切に願っています。

芸術家への金銭的支援の要望[6/7]

- 福岡県は全国的に見てもコロナ対策、施策等積極的にされていると思います。その中で、これは県の財源にも限りがある上、私たちのような音楽家や芸術家のみならず様々な分野の方々に支援をしないといけないので仕方ないことですが、自粛させるなら金銭的援助がセットということは当たり前です。現状、以前よりは金銭的な援助の取り組みが具体化してきましたが、自粛させられるストレスよりも、金銭的な不安の方が圧倒的に大きいです。可能ならば一律10万円給付のような、分け隔てなく均等に金銭的な支援をしていただけるとありがたいです。
- 音楽業界が互助的にライブハウスの存続のためのクラウドファンディングなど実施しているが、あくまでもギリギリ廃業しないようにというレベルの支援が出来るかどうかという範囲で、しかも時間がかかります。個人事業主として活動・営業している店主や個々の表現者に、分かりやすく素早くまず現金支援が必要です。また条件によって支援から漏れる人もおり、条件の見直しや手続きの簡便化を求めます。
- 演劇、映画の出演料についての契約書がまだ交わされていない内に公演が中止、延期が決定したために、書面での損失の証明が難しい仕事のため、まともに損失の支援などを受けられないのではないかと不安。また、明日以降に予定しているワークショップの講師などの仕事も高校生相手の仕事のため中止になるのではと思うので、今後の損失は増えていくばかりなので早く損失分の支援、具体的には給付をしてほしい。私個人は別に仕事をしているが、当然舞台活動での収入も生活に重要であるため、結果的にかかなりの減収があり、将来的に舞台活動を続けていく事ができるのかという不安も大きい。個人ができる活動の範囲はそこまで大きくないが、個人が大衆を作るという観点から舞台芸術の文化がもっと減退する危険があるので、福岡県としても支援を考えて頂きたい。

芸術家への金銭的支援の要望[7/7]

- 国の文化芸術への支援がはかどらない中、民間の稲盛財団の文化芸術支援、平田オリザさんのクラウド・ファンデーションなどの情報も得たが、いずれも常に短気で活用できない。福岡県内にプロの児童劇団は4劇団あるが、いずれも風前の灯火状態に陥っている。九州にあるプロの児童劇団もこの4劇団である。この4劇団が潰れると福岡(九州)のプロの児童劇団が消滅する事になる。福岡県が大きなリーダーシップを持って芸術文化団体の支援に取り組んで欲しいと考えている。県に働きかけようと、まず、打診の電話を行ったが、すでに多様な団体から問い合わせや要望がさみだれ式に県に入っていて、対応策を考えているというのが、県の回答であった(4/10段階)。このアンケートを基に、貴会を中心に県への働きかけが実行できるよう今後もご協力をしたいと考えております。

芸術家への非金銭的支援の要望

- とにかく、生活に対する不安を払拭して欲しい
- ダンスの練習する場所すべて休館されるとどうしようもないので、少人数での貸し出しはしてほしい。1人で可能とか。
- 申請などに不慣れなアーティストが多いなか、ワンストップの窓口が求められる。たとえば福岡市の文化芸術振興財団などはどうか。
- 北九州市が行うホテルでのテレワーク支援が、福岡市などでも行われ、また文化芸術活動に対しても適用されれば、利用する方はいるのではと思います。
- 創作活動の場の創出。芸術が人々の心を癒す事を信じて、アーティストは活動の準備している。ソーシャル・ディスタンスを守り自分達は何ができるのかを必死で考えている。芸術にしかできない肌感覚をどう提供できるかも考えている。文化施設などの理解や協力をお願いしたい。

芸術現場への金銭的支援の要望[1/2]

- 再開した時に、芸術文化に対する支援をしっかり行って欲しい。元々、福岡は芸術文化後進県である
- 演劇公演ができる劇場やライブハウスの存続の危機にあると思います。それらの施設が経営維持できるような支援を求めます。
- メディアではスポーツのイベントや飲食店の損失についてよく見るが、同じように演奏会やイベントを開催できず、多大な損失が出ている事業者や、裏方スタッフなどにももっと着目してほしい。
- 文化芸術活動をする方も、新型コロナで収入の機会を失っています。他業者同様、活動維持の支援、生活の保証、給付金を支給していただきたい。芸術の衰退は、生活における心のやすらぎや、生きる原動力を低下させていきます。
- 延期になったイベント(日時未定)は、小学生から高齢者、九州外のプロまで一緒に歌い、演劇関係の人がスタッフとして参加するという特殊なものなので、実施されればラスト公演となります。なので、資金・人材・衛生対策の全てに於いて行政からバックアップがあると嬉しいです。

芸術現場への金銭的支援の要望[2/2]

- 国も県も市もイベント業界が自粛要請から既にふた月の間 どれだけ感染拡大防止に貢献しているか その人達はそのためにほぼ収入がゼロって事を忘れてはいないか？ 営業自粛要請になってから営業自粛している業種だけでなくもっとも前から貢献していて被害も甚大なイベント業界にも手厚い支援をして欲しい 既に先に出されたイベント自粛要請自体が忘れられている風潮なのが悲しい とにかく手厚い支援を
- 舞台技術者業界やイベントスタッフ業界からは、長引く無収入状態により借入を起こしたり会社をたたむという声も聞かれる。福岡は九州随一の興行発信地でもあるが、このままではそれを支えてきた技術が損なわれてしまい、コロナ禍を脱した後の興行業界自体に不安が残るだろう。これまでの損失に対する補償、そしてこれからの損失を軽減させる催しの運営方針などを示して欲しい。コロナ禍の影響がもっとも長引くであろうこの業界においては、損失分の回復と今後の損失軽減どちらも必要に思われる。

芸術現場への非金銭的支援の要望[1/3]

- 今後自粛が無くなった際は地域振興と文化芸術発表を兼ねたイベントの場をたくさん作ってほしいです。
- 諸々と事情があることは承知しているので、コロナ終息後に劇場をしっかりと借りれることを希望します(使いたいと思われる団体がたくさんいると思うので)
- 緊急事態宣言が解除されても、舞台での催し物には準備期間と費用がかかるため、一般市民が時間とお金を文化に費やすのには時間がかかると思われる。その点を充分に考慮して助成していただきたい。市民センターやホールが再開したら、行政が積極的に催し物を開催し、ホール利用者にも減額や免除をして、文化芸術を盛り上げて、自粛ムードを終わらせる努力をして頂きたいです。
- オンラインでのダンスのレッスンの手伝い(PCなどのセットアップ)を行なっているが、十分な機材がない中でやっている。ライブハウスの無観客公演の配信用機材の支援などは聞いているが、レッスンに関わるものは支援されないのだろうか？稽古やワークショップも現状況下で必要なことだと思うので支援を考えてほしい。もしすでにあるのであれば教えてほしい。

芸術現場への非金銭的支援の要望[2/3]

- 現在、一方的な動画配信しか出来てなく、コミュニケーションが取れる状態ではないので、このような状態が続くようならば施設入居者にタブレットやパソコンなどを支給していただくなどして、ライブ配信でのコミュニケーションが可能な環境を提供してほしいです。年配の方を対象としたワークショップを行っているため、特に必要性を感じています。また、前年同月比の収入との比較に対しての支援金ではなく、純粋に今回得られるはずだった収入に対する支援金をいただける方がシンプルだと思います。
- 受け身ではなく、双方の未来にプラスに働く、積極的に創造性ある支援が必要。今回のような国の非常時の際には、文化芸術が最後まで取り残されている、と感じる。メディアの取り上げ方を見ても、飲食店などの取材がほとんどで、芸術家の話題は取り上げられない。エネルギーを持っている芸術家やエンターテイナーを、ステイホームさせているだけでは勿体ないと思う。別項目でも書きましたが、ただ動画などを配信するだけではなく、市の歴史とエンターテイメントを融合させ世界に発信するような、コロナ終息後も見据えたスケールの大きな積極的な企画を期待したい。
- 演劇について述べます。事態が落ち着き安全が確保できた暁には、会場(劇場など)での上演を広く支援していただければ幸いです。また、今まで舞台上に興味がなかった人や食わず嫌いをしていた人、敷居が高いと感じて足を運べなかった人たちにも気軽に演劇を楽しんでいただけるよう、楽しみの一つに演劇を選んでいただけるよう、演劇の浸透に対する支援をしていただきたいです。文化芸術は様々な分野があるので、支援の形や仕事の形にも様々あると思います。それぞれに対応していただくのは大変かと思いますが、人格形成や大切な息抜きであったり生きる糧になるものだと思いますので、柔軟で寛大なご支援をお願いいたします。

芸術現場への非金銭的支援の要望[3/3]

- 動画やオンラインでのレッスンは出来る所はしています。ただ、誰もが出来るとは限らない事と家で音出しが出来ない子供達への配慮が必要だと思います。また、現時点ではインターハイが中止になったため、吹奏楽コンクールもどうなるか分かりません。現状を考えると厳しいと思っています。大人はどうにでもなりますが、子供達にとっては大切な学校生活です。コンクールや大会が無くなってしまった場合の子供達へのサポートが本当に必要だと思います。どこに向けて何に向けて頑張れば良いか分からなくなると思います。そうすれば、部活動自体が意味があるのか？という風になり、部活を生きがいに学校へ行けて子供も少なからずいると思うので、例えば登校拒否など増えてくるのではないかと思います。実際、レッスンをしている中でそのような子供達と触れ合う事が多かったです。学校には行けないけれど、土日の部活だけは頑張ってくる。そして、そこから学校へも少しずつではあるけれども行けるようになる子もいました。自分自身も仕事がなく、大変ではありますがそれ以上に子供達の事が心配です。大人への対策もそうですが、子供達への対策も是非お願いします。私一人の意見が反映されるかは分かりませんが、どうか届きますように。心から祈っております。よろしくお願いします。

オンライン化への金銭的支援の要望[1/2]

- オンラインでの配信に必要な機材購入費も支援してほしい。
- オンラインレッスンの準備資金の助成金があると助かります。どうぞ宜しくお願い致します。
- 有料での動画配信を模索していますが、準備にも費用がかかりますので支援頂ければと願っております。
- オンラインレッスンが出来る様な支援策があれば助かります。端末代の補助、通信費の補助、システムの補助などを希望します
- これまで取り組んでいなかった、戯曲のオンラインでのリーディング、ワークショップなどを行う機会にはなったが、設備等が不足しているので、設備等を充実させる支援がほしい。その場合、設備環境を整えるということになるかと思うので、1作品ごと対象の手当よりも、もう少し期間や対象を広げたものにしてもらえると良いかと思う。

オンライン化への金銭的支援の要望[2/2]

- 全てが遅く、生活難で毎月の支払いや活動に直結していない。支援手続きの簡略化、フリーランスの演奏家に対する苦悩の理解力不足等、数えきれない程の不自由さは計り知れない。実践している事は、スマホ等でのオンラインレッスンですが、生徒達が楽器を吹ける環境でないで、なかなか難しい。学校が使えれば、個人やグループレッスンが可能だが、防音設備の部屋や学校が使用不可能の為、やり用がない状況。ただ今は、学校関係の先生や生徒達に、ステイホームを実践し今の事態を乗りきりましようと考えている。オンラインレッスンが出来る環境をさらに拡大する為の機器を安価でレンタルできればと思う。
- 児童合唱団を指導しています。大人ならWi-Fiの環境を整えてというのが自分たちでできますが、子どもたちの家庭環境もあるので無理にはお願いができません。しかし、それでは芸術とも疎遠になってしまう子がたくさんいます。いま、環境が整っている子どもとは、オンラインで個人レッスンをしています。学校同様に、今年で最後の演奏会になる子たちもたくさんいます。夏に演奏会を延期にしましたが、今のままではそれも難しいかもと考えており、最悪オンラインコンサートをしたいと考えていますが、その為には各自のネット環境が必要です。それが少しでもサポートできるような助成金だけでも願っています。また、指導者はレッスンと本番が無くなれば無収入です。どうか、もう少しお金の面で支えていただければできることが広がると思います。お願いします。

オンライン化への非金銭的支援の要望

- オンラインに関する相談及び機材の貸し出し相談が出来たら有難い。
- 表現者が各々オンライン上で活動しているので、それをつなげる取り組み
- オンラインライブ配信での課金制を充実して欲しい。日常における音楽の必要性を発信したい。
- 演奏や講座場所の提供。オンラインでの収録場所を確保できない。(音量的に打楽器は難しい)
- 大学生の個人レッスン等、大学によってWiFiの環境が違いすぎてしまい正直オンラインの授業なども生徒個人個人で格差があるように思います。今後オンライン等を充実させるような話もありますが、まずはオンライン等の環境を全ての大学などで充実させる必要があると思います。
- ライブ配信の課金問題を行政でクリアすることはできないでしょうか。プラットフォームを整備してくれたら解決します。この問題がクリアできないので、まだライブ配信を考えていません。配信者、視聴者ともに手間がかかります。投げ銭は法律違反となっていますが、Youtubeのようなスーパーチャットができるのが理想です。

その他の要望(再開基準の明確化)[1/4]

- 今後観客動員の際の、衛生面や安全面の徹底をお願いをしたいです。
- 文化会館活動再開に向けた集客人数制限などの一定の目安を早く示して欲しい
- まずは、いつ、どのような形であれば、再開できるのか具体的な指針が欲しい。
- 再開のタイミングだけです。それさえ判断できれば、自分たちでやっていけますが・・・
- 今後イベント、コンサート、展覧会等の活動を主催する際の参考となる明確なモデルが知りたい。
- コンサートを開催するにあたり、可能な期日(7月～とか具体的に)、会場規模など概要を提示してくれるとありがたい。
- 自治体や国からの包括的な支援が必要だと思います。また具体的な数値による活動再開の目処が立てば、モチベーションが変わるかと思います。
- 2月末から自粛を続けている業界は他にないのでは。評価され、補償されるべき。また演奏会会場でクラスターが発生した情報は無く、再開していく目処を立ててほしい。

その他の要望(再開基準の明確化)[2/4]

- コーラスの指導をしているが、緊急事態宣言が終わっても、すぐに再開出来るか分からず、また、シニアの方が多いため、この分野の再開について、きちんとした方向性を示して欲しい。ずっと自粛では困る。
- 感染者数や再生産率がどの程度減ったらどの程度業務が再開できるのかの具体的な指針をとにかく示して欲しい。とりえずやり過ぎるべきか今すぐにでも方針転換すべきなのかの判断がつかず先が見えないのが一番困る。
- 公演等を再開する時の「こういうルール(換気とか客席の密度とか)での上演なら大丈夫」という公的なルール作りをして欲しい。個人的な見解だけで再開させるとクレームの原因(自警団的な)になりかねない怖さがある。
- 再開後の演劇の講演や稽古がどのようなものになるのか、想像がつかないのがもどかしいです。どう対策すれば、関係者と一般の方が納得できるのかとか、どのような段階を踏んでいけばいいだろうとか、指針なり後押しなりがあると心強いです。
- 原状6月に実施予定だった公演を2021年2月へ延期しました。そのおおきな理由が今年度助成金に採択されており、今年度中への実施を粘るためです。小さいスペースであれば、どのようにすれば実施可能なのか、そのあたりの判断を県に決めてもらえると、こちらの実施に向けての判断もしやすくなります。

その他の要望(再開基準の明確化)[3/4]

- 先行きのわからないコロナウイルスの影響。どのようにして共存してばいけばいいのか。展示会を安全に行うには、どうしたらいいのか? 専門家をどうして明確なルールを決めて欲しい。もし、出来ないのであれば何らかの形で支援をギャラリーにして欲しい。 たくさんフリーランスのカメラマンは仕事を失っているがこれからオンラインかが進むと思うのでInstagramの写真やウェブの写真など 重要が増える事を願っている。
- 今後、劇場での公演を行うにあたり、明確な定義を行政から示してほしい。人の距離、客席の密度や換気の対策等々、主催側から観客に対して明確に提示できる指標を示してほしい。 劇場での上演活動再開可能の、明確な許可を行政から発信して頂きたい。また、条件があるなら数値としてはっきりした形での提示がほしい。 文化活動再開後は、おそらく劇団間で劇場の取り合いになると思うので何かしら対応策が必要になってくるかと思います。
- 5月までの損失もありますが、夏、秋に行われる予定だった事業が中止になり、年始の見込みから大きな損失となります。自分が関わっている分野は演劇であり、コロナ収束後にどのような形態で上演していくべきか、そもそも従来のような上演ができるのかが不明であるため、大きな不安があります。「自粛」「自己責任」というあいまいな方針で、現場は苦悩・混乱しました。事態が落ちついた際には、こうした舞台芸術作品発表の可否、方法等の具体的なガイドラインを行政に明示して頂きたいです。

その他の要望(再開基準の明確化)[4/4]

- 現在、劇場での公演再開の見通しが見えない中、今後の活動計画が進められていない状況です。どのような条件で、劇場公演を再開していいのか、基準のようなものがあるとありがたいと思っています(多少厳しくてもよいので) 目処をつけると、もう少し具体性が出てくるようになると思います。具体性ができれば、そこに向かうモチベーションが生まれ、数々の芸術団体の踏ん張りが少しは効くのではないかと思います。基準がないのがとにかく難しく、自らの判断で自粛し続けるというのは、経済的にも精神的にもかなり辛いものがあります。最近では、映像の配信や、公演DVDなどの通販、WEBイベントなどを開催したりしながら、少しでも表現活動を続け、ファンの繋ぎ止め、新たなファンの開拓を行っています。ただ、やればやるほど、生の演劇が恋しくなってる現状です。

その他の要望(支援窓口関連)

- どの誰に相談したらいいのか教えて欲しいです。担当部署など。
- 持続型給付金の手続きが複雑すぎて申請しにくいので、簡単にしてほしい
- 助成金などの申請手続き 書類作成などを 老人でも出来るくらいに 簡素化してほしい。
- 手続き時の窓口職員にきつい言い方で断られたという知人もおり、職員の独断等が入らないよう、また門戸を広げる方向に丁寧に相談にのっていただきたい。
- 行政や文化財団に、市民活動について親身になって相談、支援してくれる窓口が欲しい。今回のコロナ対策の司令塔であった福岡県は、政令市を含め、県下全域の文化振興策をきちんと把握し、予算計上して支援すべき。
- 国や自治体による損失補填は、申請書類が整う規模の事業主が対象の場合が多く、利益が少ない個人でやっている教室などは、提出できる書類もなく、申請が難しいように思われるので、そういう場合の相談窓口があると助かります。また、イベントと教室の両輪でやっているの、収入にばらつきがあり、申請しづらい。もっと全体的に損失額を見て欲しい。

その他の要望(支援制度関連)[1/3]

- 上演芸術に特化した支援策(ドイツなどの様に)それも早急に欲しいです。
- 税務署の指導により雑所得申告をして来たフリーランスアーティストも持続給付金を受けられるようにして頂きたい。
- ・ウイルスを乗り越える、のではなく、ウイルスと共生するための策を考えていきたい。・寄附に頼りすぎない制度が必要。・無観客ライブ配信のマネタイズが急務と思います。
- 政府にも地方自体にも文化芸術や興行の有識者を入れて支援、損失補填策を協議してほしい。自粛による公演中止などで事業者にとれほどの損失を抱えているのか実態を理解していないのではないかな。
- 地方の自治体などがアーティストを受け入れるような制度を作ってくれたら、これを機に活動拠点を地方に移す人も出て来ると思います。そうなると地方の活性化にもつながるのではないのでしょうか。
- 先の欄にも書きましたが、2020年に開業したため持続化給付金を申請できません。(それまでは雇用されていました)行政には見直し分を考慮した支援を、判断の方法が難しいのは承知の上で考えて欲しい。
- 芸術分野の支援について、野球で言えば草野球支援なのかプロ野球支援なのか、対象を明確にしてそれぞれに適した支援を実施するべきだと思います。日本では草野球支援の枠組みのみが想定されているので、どちらも対応するべきだと考えます。

その他の要望(支援制度関連)[2/3]

- 仕事の無くなった演者、経営難のライブハウス等周りにありすぎて、個人で支援するには、限界があります。オリンピックは開催を目指すのに、文化活動の支援なくしてありえません。音楽や演劇がいかに大事かをわかってもらう事と、各救済など法的整備がすすむ事を望みます
- 少人数の集まりや屋外のイベントなど、収束後も安心して芸術にライブで触れられるような基準を示して欲しい。また、このような状況でオンラインで著作物を二次利用することへの著作権にかかわる契約などをゆるやかにして欲しい。または著作の申請がすみやかに終わるように利用しやすい環境を作って欲しい。
- 文化芸術分野に関しては全国的にも映像配信などに関わる支援が多いように思います。社会状況から考えると仕方がないと思う一方で他にも多様な枠組みがあると良いと思います。活動しづらい状況がしばらく続くと思うので、次に動き出す時の後押しをしてくれるような支援の形があれば活動継続にも希望が持てます。
- 出演料等の支払いが取っ払い等、不明瞭な事案が多く損失が出た場合の申請が難しい、現状 個人事業主を対象とした支援となっている給付ばかりでありフリーランスの保障が得にくい また確定申告等で収入区分を間違えると申請出来なかったらりで困っている。支援策が柔軟であるか事業の契約等をもっと厳密にしてほしい。

その他の要望(支援制度関連)[3/3]

- 文化芸術分野で生計を立てている個人あるいは小規模の団体は、今回のイベントの中止要請で、生活手段と外に向かった個性(芸術?)発露の手段が残されてないことに強いショックを受けている。個性発露の遮断から受ける内面のささくれは、プロ・アマを問わず本人しか判らない現象ともいえるが…。そこで今回、支援策を考えるとすれば、経済的なバックアップを増やすような社会の仕組みを徐々に確立することと、芸術発露の機会となる無観客公演に助成を考えるなど広範な対策が欲しい。
- とにかく、音楽をはじめとするエンターテインメントや、その箱(ホールやライブハウス、貸しスタジオ等)に対しての支援が無さすぎます。ドイツなどは経済対策とは別に予算を国が組んでくれ支援しています。実際に今の日本のこの状況を支えている一つに音楽の存在は大きいです。これで音楽やエンターテインメントが無かったらこの状況を乗り越えられない国民が爆発的に増えると思います。もっと音楽の持つ力を国や各自治体の首長さんが理解すべきだと思います。このままでは日本の文化は廃れてしまいます。日本は先進国を名乗るのであればもっと文化を大事にして欲しいです。経済だけでは国は成り立ちません。人の心から正常な状態でなければ国は廃れます。人の心に安定や安寧、幸福を与える事が出来るのは音楽やエンターテインメント等の文化です。国にはもっと日本の文化に携わる方への支援を求めます。

その他の要望(コロナ対策)

- 人を集める音楽家としての活動は再開の目処もたちません、予定すら決められない状況にあります。PCR検査の自由化無償化、および抗体検査まで行って頂きたい。活動を行う為の準備として必要なマナーとしてもらいたい。サポートのスピード化、融資の簡略化、マイナンバーもあり納税も行う市民が生きていく道さえ見えない状況をいち早く改善しなければならないと、何より急いで頂きたい。

その他の要望(その他)

- 福岡の音楽文化を守っていただきたい
- 政府は、ドイツ政府と同様の発言と支援をして欲しい。
- 再開に関して中止を要請した側の国、自治体自身はその主催公演、イベント等を躊躇しないで欲しい。

今後の見通しの不安

- いつまでに終息するかわからず これからの見通しが立たない。
- レッスン主体ではなく演奏活動が主体だった為、本当に八方塞がり。
- 先がわからないためどのような仕事をすべきなのか見通しがたたない。
- 舞台事業に関わっています。「では明日から一斉に活動再開OKです！」となっても、舞台が幕を開けるのはそこから数か月先です。その数か月が不安です。
- 今後の見通しが立たないため、延期するにしても再設定ができない。会場を押さえて準備し、告知してもまた中止や延期せざるを得ない場合も考えられるため、支援があると確約してもらえなければ着手できない。
- コンサートやライブなどクラスター発生になりそうなものが多いので、緊急事態宣言解除後も活動再開して元の状態に戻るのは年内無理なのではないか、と思っている。解除後もしっかり助成などサポートしてくれるのか、など先行き不安しかないので、何の取り組みも出来ない。

手続き面の不安

- 契約書がないような仕事、口約束でキャンセルになった仕事などが多数あるが、コロナが原因かどうか、証明ができないものに関して、どのようにしたらいいのが困っている。このイベントでだいたいこのくらいの収入が見込めてたが、イベント中止のため、ゼロになった、というようなことを証明する手立てがない。

活動面の不安 [1/3]

- とにかく助けて
- Live配信などで頑張っていますが限界が有ります
- イベントなど再開した場合の、再開の時期 集客がみえない
- 無理。3密が売り物のライブは、今の状況では、再開は考えられない。
- コロナの現況を鑑みた新規事業をおこなうときのネットワークをどうやってつくるかが課題。
- オンライン配信、オンラインでの練習や動画撮影をしたいけど、技術や機器の不足などにより、活動が進まないこと。
- オンラインを使っている。でも限界がある。私はサイドワークなので大丈夫だが、専門の友人達(演奏家、ホール、ライブハウススタッフ、指導者など)の命が心配
- コンサート延期した場合、来年～再来年の会場押さえが難しくなることへの懸念があります。特にアクロスシンフォニーホールの改築の時期が予定どおり来夏からだと厳しいです。
- 障がいのある演奏者で、不定期の演奏依頼を受け、それを、社会との接点として活動していたため、世の中が落ち着いても、以前のように演奏依頼があるかどうか不明で、不安です。

活動面の不安[2/3]

- 見通しが立たないなか、文化活動より衣食住だろ！というバッシングと、日本が文化に対して無頓着な感じが、末端の僕らにはどうすることも出来ず、ただ、じっとしているだけなのがストレスです。
- 部活動の再開に目処が立たない以上、以前のような仕事は出来ないという不安があります。ただでさえ収入が不安定な時期もあるのに、見通しが立たないので、どうすることも出来ないのが現状です。
- オンラインでの演奏やレッスンをするにも、音を出せる環境が無くなり、苦しい状況です。(自宅で音が出せない。) また、楽器の特性上、日数が経過するほど実力維持が難しくなっています。
- アマチュアの音楽家ですので生活が逼迫することはないのですが、練習場所がどこにもなく、技術の低下が心配です。演者、聴者ともにこのまま音楽の文化が廃れてしまうのではないかと不安もあります。
- 高校生で吹奏楽部なのですが練習は全然出来なくて、演奏の質や個々のレベルも落ちているだろうと思っている中、部活が再開するのが心配だし、コロナウイルスの感染リスクはないかなど、様々な点で心配です。
- オンラインでできることも並行して考え始めています。しかし、周りに詳しい人材や機材があるわけではいので、具体的に落とし込んでいく時に伝えたいことがきちんと伝わるような取り組みにできるのか、やや不安です。

活動面の不安[3/3]

- これからの企業や自治体の文化芸術への予算の考え方や方針が、今後の地域での文化活動の大きなポイントであると考えています。その見通しが見えないことが不安ですこれまで何年も継続してきたことによる成果が失われてしまうのではないかと懸念しています。
- 現在の緊急事態宣言等はいずれ解除されるだろうが、解除後も近距離会話や密室での会合が敬遠される風潮となることが予想されれば、それは演劇等の活動にとって非常に苦しい制約となる。科学的根拠の薄い自粛ムードによって活動が制限されることを懸念している。
- 今年の12月に公演予定です。今のところほとんど影響はありませんが、本来なら打ち合わせ等公演準備を始めていなければいけません、全くそれが始めることができません。収束に時間がかかりそうなので、このまま準備を始めてよいのか、それとも早めに止める決断を、下したほうが良いのか、またすでに納めている会場費用の負担はどうするのか、など迷いはつきません。
- 未だ収束の兆しもなく、長期化の予想もされているなか、いつ、どのような段階で再開できるのか見通しが立たなくて次の企画もできません。アーティストの皆さんも演奏の場がなく、目標も持てない上に経済的な不安などが重なり、メンタル面でもかなり追い込まれています。企画する側としてはなるべく早く演奏の場を作ってあげたいと思っています。ある程度収束したらせめて小規模、少人数のコンサートが開催できる目処がたつと良いのですが、もちろん経済面も大変ですが、それ以上にアーティストとしての活動の場がないことが一番辛く感じているように思えます。

金銭面の不安[1/3]

- 収入が全く無く、現在もそうだがこの先、生きて行けるのか不安
- 先行きがわからないから不安です。会社経営自体が出来なくなりそうで。
- 無収入が二ヶ月目となり、今後、解除されたとして同じように文化活動が出来るのか、同じ収入を得られるのか不安です。
- 何も支援のないまま5月に入り、生活のみならず、楽器の維持費、休みに伴う研究材料費も貯金を崩しての生活は流石に苦しいです。
- 今受けられる持続化給付金は3ヶ月くらいの補填にしかならないので、休止期間の少なくとも家賃の補填助成を受けないと施設自体のキープが全く出来ない。
- 現在の減収で事業を持続できるか不安、将来の活動の不安。両方のサポートが欲しい。文化芸術は生活に必須なものとして、認識、支援をお願いしたい。
- 一部オンラインレッスンを開始したが、方法についての試行錯誤は続いている。収入が激減、今困っているものに対する支援が遅いため、生活が成り立たなくなっていく。

金銭面の不安[2/3]

- 家賃や様々な支払いなど、現在を維持し続けることが難しい状況です。また、5月末まで休業要請となって、その以降にすぐさま、いろいろな物事がまわっていくとは思えないので、継続していくことも不安です。
- 一番の問題は事業所の家賃支払い 支援金が必要 コロナが終息しない限り、教室やライブや展示を再開しても、集客自体が難しい状況。オンラインで教室が出来ないかを検討中だが、生徒から躊躇されている状況
- コンサート業界従事者です。恐らく向こう1年は今までの形での再開は見込めないと思うので、新しい方向への舵きりは模索するべきだとは思いますが、現状を生きること必死です。緊急小口資金、総合支援資金や、納税の猶予は申請はしたものの、それらはあくまでも『借金』であり いつか大きく負担になるものでしかないことを思うと、持続化給付金などでは到底賄いきれず... 苦しい日々です。
- ピアノレッスンは四月はオンラインレッスンで乗りきりましたが、生徒さん側からお月謝に見合わないと言われたのと、自分もiPad売り切れの為、スマホでオンラインレッスンは船酔い状態になるため、レッスン半分、お月謝半額にします。生徒数が80名、バレエ教室、楽典教室、英語教室も展開しており、子どもだから、やはり、念には念を、で、閉めています。早く、収束して、コンクール等も始まらないと、子ども達、保護者のテンションも下がり、ピアノなんて、と退会されてしまう不安の日々です。

金銭面の不安[3/3]

- 現状では銀行より運転資金の借入を行い凌いでおります。担当する業務が消滅した半数の従業員については自宅待機をさせながら雇用を継続、新卒者も採用しており、所属会社と業界の将来を悲観する事の無いようにあらゆる支援・助成を活用するよう情報を収集し、手続きを進めております。緊急事態宣言が解除されても以前の状態にまで回復する見込みが無く不安です。価格競争も激しくなることが想定されます。今後は、様々な経費の節約は当然ですが、従業員の給与も下げなければ経営の継続は難しいかもしれません。緊急事態宣言の解除前、今のうちに今後の業務や会社の方向性について、従業員と建設的なディスカッションを行うことで、働くモチベーションと将来への希望が持てるように精神的なケアも行う予定です。ありきたりですが、経営者としてしっかり今日を生きて見えない明日につながる努力をして参りたいと考えております。

支援策への不満

- 自費で設備を購入し、オンライン配信を行なっている。しかし福岡市の支援対象にはならない。
- 現時点で出ている支援策は、業としてアートを生業にしている人だけが対象になっていて、実際には大きな部分を占める「仕事の合間の時間で生活費を削りながらアートに携わる人達」は全く対象とされてない。もちろん、境界線が難しい話だとは思いますが、金も評価も実績もある人達だけが生き残れば、そうでない人達の多くがアートから離れたとしても「アートは生き残った」と「アートは救われた」と言われるんだろうなと思うと、仕方がないこととは言え、大変残念で腹立たしく思います。

現状共有 [1/4]

- 新たな動き方を検討模索中
- 色んな金策に注力しています。
- 今は、変更や中止対応に追われています。
- 練習する場所がなく、今は何もできない状態です
- 以前の状況と余り変わらない状況に戻る為の環境整理
- 持続化給付金の申請中、融資・貸付関係の申請は現在、見合わせ中。
- グランドファンディング(チバマサミ発案)に賛同して支援している。
- 私は表現者なので自分で創作をしているが、収入になるものではない。
- 現状、仕事がなく収入は全くありません。演奏会も子供たちへの指導も難しいです。
- 家族があるので当面の生活資金と今後の見通しが立たないので動きようがない。6月まで現状仕事が全て無くなった。

現状共有 [2/4]

- まだ企画の段階で公演日時も未定でしたので、今のところ支障はありません 生活は主人に依存していますので、大丈夫です
- 今後はオンラインレッスンが主流になっていくのかもしれませんが、受講者が皆、音出し可能な環境にないことがネックになりそうです。
- 国や市に支援されることばかり聞きますが、国の破綻が一番怖いので、自分でできることも必ずあると思い、収入を違う仕事で賄う努力をしています。
- コンサートやレッスンが出来なくなった今、オンラインや配信への移行を検討しています。しかしマイクなども品切れ状態ですし、知識も十分ではありません。
- 新作を作りつつ日々を過ごしています。公演ができなかったことを除くと変わらない毎日です。オンラインの動画には心が動かず。3D やVR動画配信ならやってみたい
- 今のところオンラインによる取り組みしか表現が見つからない、が手探りで行っているなか機材などの品薄やどうしてもコミュニケーションの不完全さを感じる。行政主導の予定された展覧会が3月に予定され中止されたのだが未だ補償などは行われなまま棚上げされた状態。

現状共有 [3/4]

- 2021年秋に、福岡と韓国・釜山の俳優が福岡にて稽古し、ヨーロッパの複数都市で上演する話を進めていたが、コロナは世界的な規模なので、受け入れ予定の劇場を含めて全く予測がつかなくなった。現所在地元の創作者と無観客作品の映像配信の話を進めているが、配信時に課金をすべきだと考えていて、その簡便な方法を追求しなければならない。
- 子どもたちと一緒に舞台づくりをしています。学校再開の目処もたらず、みんなで集まれる機会もなく今回8月に予定していた舞台公演をやむなく中止しました。オンラインレッスンで繋がれると、気持ちも途切れずにいいな、とは思っていますが、ボランティア団体のため、その経費は現段階では捻出できません。自宅のできる基礎レッスンなどの配信はしています。
- 基本的に芸術関連はそもそも収入が少なく、アルバイトしながら活動する場合も多いので、今回のコロナでアルバイトも無くなり、芸術活動も出来ず生活に困っているケースが多い。芸術関連の多くは稽古場や会場などでコミュニケーションを取ることが凄く重要だが集まれない事で営業も出来ず新規の仕事の獲得も出来ない。今までやってこなかったLIVE配信なども機材費投入しなるとか行っているが収益化されないため赤字

現状共有 [4/4]

- デザイナー、フォトグラファーとして活動していますが、イベントの中止などでデザインの仕事は軒並みキャンセル。写真の仕事は外出できないので、自宅のできるもの以外はお断りせざるを得ません。収入自体そんなに多くはありませんので、派遣でデザイナーとして行政で仕事をしているのでなんとかこなしていますが、今後、個人事業の方は行政相手です。仕事をしていたこともあり今年は殆どのイベントの中止が既に発表されていて、収入は見込めません。来年もわかりません。行政はイベントをやめてコロナ支援対策に予算を回しているのだから、デザインに重きを置きませんし、不安定な仕事です。支援がこちらに回ってくることは殆どありません。私は行政側の動きも把握しているので、今は仕方ないと思っています。基礎疾患も持っているのだから、命の危険があります。そういう人に医療を拡充は最重要。仕事は派遣でも微々たるものでも収入があるだけマシですが、演劇や美術関連の仕事で生計をなしてある方、などはスタッフだとしても、苦しいことだと思います。イベントを中止し、閉館し、表現の場を奪われているのですから。そこに支援策が行き届くのかと言われると、国債を発行して対策している以上、難しいのだらうと思います。今、できることと言えば、そんな境遇の人がたくさんいることを、行政に伝えること。派遣先の行政の上の方に、とにかく、わたしの言葉で広めることをしています。ただ、中の事情を知る者としては、昼夜問わず対応に追われる地方自治体の職員さん達には感謝してもきれません。この未曾有の事態を乗り越えるためには、やはり国に動いてもらう。それがダメなら、県を動かすしか、方法が無いのではと思います。わたしはネット環境でなんとかできるデザイナーではありませんので、収入を考えると新しい仕事を起こすしかなく、資金もノウハウもないので動けずいます。全てが早く落ち着くことを願っています

実践例[1/6]

- 制作しています。
- 新作の企画を練る
- 無観客動画配信の実施
- 業務全般のオンライン化
- オンラインでの映像配信
- オンラインレッスンをしています
- 秋口には何とか展覧会の開催実施。
- インターネットによる動画の配信など
- 配信ライブの機材購入、運営をしています
- 助成金の申請、セーフティーネットの融資等
- オンラインレッスンを始めようとしています。
- コロナ対応下でのイベント開催方法の模索／実践
- オンラインライブ、レッスンなどに切り替えています
- 生徒が急激に減り、オンラインレッスンを予定している。
- Instagram等で、アートに関する情報を発信する
- 来れない方の為にオンラインサロンを開講いたしました。
- SNS等で知り合いのアーティストとリレー形式で作品を発表
- オンラインを使い、生徒の練習を目的とした動画を作成・公開
- レッスン先の指導校への動画配信。作曲・アレンジ作業。

実践例[2/6]

- 市の社会福祉協議会に電話をして、貸付の申し込みをしました。
- ZOOMやスカイプによるオンラインにより、人脈が広がってきた。
- ネット配信を表現方法のひとつとして考え、展開することにしました
- 稽古は出来ていないが、打ち合わせ等ではオンラインを活用している。
- オンラインコンサート YouTube配信 オンラインレッスン
- 展示やイベントを無観客で実施してON LINE配信することを試案中です。
- (実践) ネット配信によるアウトリーチ事業「こども・あーとギフト」事業
- 新規事業の開拓、経営計画の見直し、コストカットなどすでに実施しています。
- 予定していた対面での活動形式をオンラインでできるものに変更しようとしている。
- 現在、無観客などで収録したコンテンツを収益化できるインターネットサイトを構築中

実践例[3/6]

- 海外マーケットへのアプローチ。受注型ではない、アライアンス方式でのコンテンツ制作。
- メンバーのモチベーションが下がらないようSNSで情報発信したりリモート会議をしたりしている
- オンラインでの創作支援、オンラインでの企画会議、オンラインでのセミナー開催の準備などを実践しています。
- オンラインコンサートの実施。しかし、音質の問題、オンライン配信に対する知識不足、設備不足など、現実的な課題が多い。
- オンラインレッスン、オンラインレコーディング、無料配信ライブを展開中。成果には程遠いですが、なんとか需要喚起に繋げていきたい。
- 作曲家として活動している。この期間、演奏されていたはずの楽曲がいくつかある。それらの楽譜PDFを自身のWebで無料で公開し始めた。
- 学校へレッスンに行けないので、動画配信をしています。オンラインレッスンに繋がるように宣伝していますが、生徒獲得にはいかない状況です。
- 生物の音楽を大切にしたいが、オンラインレッスンを取り入れようとしている。しかし、生徒さんも収入減やネット環境の問題でできない方も多い。

実践例[4/6]

- 大学の授業において、オンラインレッスンを5月9日より、始めようとしている。非常勤講師であるが、zoom契約などを大学で行ってくれている。
- ◎YouTubeで限定公開動画をupし、団員が自宅でレッスンできるようにしている。◎週一回zoomアプリを使用し、個人レッスンをこなしている。
- 新しい活動を作ろうとしている制作者にとってはとても有益な制作の時間だとありがたく感じています。問題は今後次に展開するときその体力と資金、人材の問題かと。身軽が良いな。
- 前の質問に対する回答に記載させていただいたCDのより多くの施設や団体への贈呈(コンサートの代替として)。尚、現状、思いつくのはこの施策ですが、他に助言いただけるとありがたく思います。
- か一切案内のちらういを7,000枚配布したため、1,000(人・箇所)に延期のはがきを送付しました。更に、新しい開催内容が蹴ってしまったら、改めて1,000(人・箇所)に告知のはがきを送ります。
- こういう状況下だからなのか制作意欲がすごくわいてくる。時間はあるが材料が購入できない。3月末と明日からの展示が中止になったが作品をfacebookにアップする、秋にオープンスタジオで展示することで対応しようとしている。

実践例[5/6]

- 稽古をオンラインでやっています。世の中が不況になれば芸術文化どころではないとわかっていましたが、実際にこんな世の中になるとは思いませんでした。こんな世の中になっても、お稽古に来てくださる生徒さんのありがたみを再確認しました。
- 情報に踊らされないように、しっかりとした対応ができるまで時を待つ。そのような取り組み方で実践しています。現実的に可能な範囲から、点から面へと、効果は見えづらいですが、身近なところから、制度等の相談を受けたり、オンラインで表現するものを作成しています。
- 政府系金融の融資、持続化給付金の申請などを行っているが、「今すぐ要るお金」「無期延期となった新企画の継続とそれに係る経費増」「国際交流事業の渡航の目途の立たなさ」など困っている事は多々あるが、子どもを対象とする演劇集団である特性を活かして、お家に閉じこもる子ども達へのSNSによる本番公演の配信を地元太宰府市と連携して始める。独自の配信も準備中。
- 今回の個展では一部の方のみに予約制でご案内し、入口のドアオープン、消毒薬設置、マスクをしてない人が入って来られたら入場お断りする、という感じでやりました。話しをする場合は3メートルほど離れてするようにしました。また接触感染を避けるため芳名録は置かず、マスクを外さなくて良いようにお茶の接待などもしませんでした。観る人もそれで納得されてました。

実践例[6/6]

- オンラインで戯曲講座を受けたり、配信型上演作品には積極的に参加するようにしています。この情勢の中でも作品作りを諦めず、新しいスタイルで発信している仲間を応援したいからです。私は元より俳優としての収入のみで生計を立てておりませんでしたので、少しの収入減はあるものの、余裕分は継続的に活動している方に渡ると嬉しいと考えています。なので、今、止まる選択だけでなく、環境や社会と共存できる作品作りをする団体を支援できる方法が必要だと感じています。そして何よりも、技術者の方々、劇場の職員の方々などへの支援が必要だと強く思います。私個人としては、俳優活動だけに執着するのではなく、人間として社会へどんなふうにも貢献できるのかを考えています。
- 今は、北九州・下関・福岡の教室は会場が使用出来ず、工房への生徒さんの来訪もお断りしております。住まいが下関市ですので、仕事場の北九州へ通うのも県外にあたる為、3月から減らし4月からゴールデンウィークまでは殆ど行っておりません。一国民としての協力は最低限つとめていると自負しておりますが、来週辺りからマスク着用の上、除菌にも気を払いながら、少しずつ自分の仕事は再開していきたいと思います。ただ教室は、お教えするのに距離を保つことが困難ですので、どうしたら良いか迷っております。実際、北九州の会場は6月まで閉鎖ですので分かりやすいですが、下関や福岡の会場はその都度その都度の手続きで、逆に混乱致します。生徒さんへの連絡もその都度で面倒だと思います。ちなみに、どの会場も公共の施設です。皆様も、私以上に大変だと存じます。どうぞご自愛くださいませ。

意見[1/9]

- 健やかに日々を過ごしましょう
- こまったなあこまったぞう。でもなんとかするぞう！
- このアンケートのraw dataの公開をお願いします。
- 特にはありませんが、事態が早期に収束することを願うばかりです。
- エンタメ系従事者全員に対しての独自支援補償給付金は絶対必要だと思う。
- 県内の芸術イベントをジャンルごとに一斉公開していただけると助かります。
- コロナ禍の現状でおきている、今後を見据えた新たな可能性の模索について、もっと共有していきたい
- 少数人レベルでは、全く対応できません。アーティスト丸となり、音楽の必要性を、社会と一体となり、長い目で対峙したいです。
- 補助補填ももちろん大事だと思います。と同時に、パイを奪い合うのには限界があると思うので、現状でも仕事を創出できたらいいですね。

意見[2/9]

- この状況においてダンスの社会利用を考える人、お金を出す人、享受する人、繋ぐ人が必要。ダンスや演劇の社会的価値を未来に伝えるため。
- 現時点で行うことができるとしたら、普段は事業実施のみに集中している力を「情報発信」「アウトカムの分析」「評価」ではないかと考えている。
- 政治家と一般の方の文化芸術への見方は、海外よりも低い位置にあるという事を感じさせられます。それ自体を変えていく取り組みが必要だと感じました。
- オンライン発信や在宅勤務には、組織制度の制限から(それを想定して作られた制度ではない)限度があり、この状況がこのまま長引けば、できる仕事なくなるだろう。
- この3ヶ月近くの無収入で、様々なアーティストの生活がままならなくなっていると思われます。練習環境も含め、以前のような状態に戻るには、一年程度の長い支援が必要だと思われます。
- 今後は、非接触型またはソーシャルディスタンスの確保の上での、オンラインを含めた美術作品の鑑賞の機会づくり、場づくり、環境整備が必要と思われるので、それに関する情報交換と環境向上に向けた取り組みに大変興味があります。

意見[3/9]

- 今はこれからの芸術文化そのものの変容を模索する段階であり、今までの文化活動を再開する危険性をしっかりと認識し安易な再開を助長し芸術文化の壊滅につなげないようにすべき時期と考えます。未来のための腰だめという事を芸術文化などに関わる方全員に認識してほしい
- 音楽に対する芸術の意識が低い日本人が国の代表やメディアで見る「専門家」である事が問題。専門家は専門以外の知識は無い事を理解した上で速やかに責任ある支援策を行うべき。「欲しがりません勝つまでは」を強いられているみたいだ。事態の終息を心から祈ってます。
- 現在国による様々な支援がありますが打ち出すのがあまりにも遅い 自粛しろと言ってはいるがそれに対する補償も一度きり 国会議員は全員他人事のように話し 次の選挙の票固めしか頭にない 追加支援に地方自治体は懸命になる中国の説明は今だに具体的なものが何一つ無い
- 早くウイルスの生態を確認し、無駄のない防御対策を行う。不確定な物を漠然と危険危険と言い、すべての物をストップさせるのは、馬鹿げたこと。大きな迷惑。また、国の支援策？金の使い方、バカげている。利権？これに乗じて金儲けする政治家を辞めさせるべき。それを許している私が、馬鹿なのかも知れない。
- 公演や展示がなくなることで、その周辺で、稽古場や制作アトリエ、テキストや装置、展示関係の業者への借り入れや、印刷代など事業に先行して行われたコンテンツを、カタログやブックレットの制作によって、紹介できないものかと思えます。またその配布、販売によってチケットの払い戻しや損失の補填に当てることは出来ないものかと考えます。

意見[4/9]

- いわゆるアマチュアとプロで求めるものが違うと思います。コロナについてアマチュア演劇が受ける影響は、「今後長く発表の場が奪われる・失われる」ことでしょうか...。オンライン演劇に可能性は感じつつも、安易に手を出してしまうと失われるものが大きい気がして、躊躇してしまいます。行政側が「無観客配信」という言葉を早々に使ったことにも、演劇の特性を理解されていないのではと危機感を持ちました。
- まずはお金、芸術活動を行う団体や芸術家が潰れてしまっただけでは未来はないので。ファンディング、公的支援、お金を生む仕組み？...すでに出ている方法かもしれませんが、未来の公演チケットを市民の皆さまに買い上げていただくとかでしょうか。そして、その公演は、密を避ける野外の催しに。分散して見ることができる仕掛け。公共の場所で、場所の賃借料は無料にしてもらおう。0より1ということで提案してみます。
- 海外で活動されてる方たちの、その地における政府のサポートなどの情報を聞くと、対応の手厚さやスピード感に驚きます。かたや日々報道されるこの国の政府の様子を見ると、まあ、こんなものなんだろうと思います。残念ですが。若いみなさんにはそれぞれの活動にがんばっていただきたいですが、選挙にもキチンと行って投票してほしいです。古賀さん、大澤さん、ご苦労さまです。ありがとうございます。
- 対処療法では意味がないと考える。また、支援を求めるだけでもだめ。文化芸術という言葉が好きではないが、こういうものに従事している人間がやるべきことはただひとつ。上手くなることだけです。人に喜んでいただく。お金のためにやるのはプロではない。そもそも文化芸術とは何か。少なくとも福岡にはやってる人も行政も財界も、文化芸術＝カネ。としか捉えてない井の中の蛙だらけにしか見えない。

意見[5/9]

- 文化や芸術に対する支援や理解が無さすぎる。各団体や各自の自粛と言う名のもと、沢山の公演などが中止となっている。それに向けすでに準備してきた期間にかかった金銭的な損失、精神的なショックも大きいのに、それについての理解もない金銭的な支援も無い、としか感じられない。雇われている人には休業保証があるだろうが、休業どころか、すでに失業。日本では特に、世の中の人にも知られていない事が多すぎると思う。
- 文化芸術関係者の最大の役割は人間性を回復し維持すること。その能力は有事にこそ発揮されるが、その能力が最大限発揮されるためには平時からの備えが不可欠(我々の人間性は平時から常に損なわれ続けており、そのメンテを怠りまくった結果が現在の日本の惨状を招いているのは言うまでもない)。このコロナ禍を機に文化芸術行政を、平時の利根的娯楽や経済発展を供するものとしてだけでなく、消防・警察・軍隊と同レベルで有事に備えての最低限の社会インフラ整備という認識で再構築しよう。
- 一般の市民吹奏楽団の役員をしております。2月末から活動休止。私達はこれで生計を立てているわけではありませんが、それぞれ学生・社会人で今のメンバーで演奏できるのは今年のみ、今後活動再開した時点で同じメンバーと一緒に活動できません。吹奏楽コンクールも中央になるんじゃないか、演奏会も4月の予定をとりあえず延期してますが開催できるのはいつになるか プロの演奏家じゃなく、アマチュアでも45年以上の歴史のある楽団の存続が危ぶまれています。全国の一緒バンドが同じ状態です、それを分かって欲しい 事業としてやってませんが、地域の団体として音楽を通じて地域に根差し、さらに良い音楽を届けるために活動している団体があることを知ってください。よろしくお願いします

意見[6/9]

- 地方では公共文化施設の中で事業を展開していくのが、最終的に息長く実演者を支えることができるのではないのかとの考えから、行政設置の施設で職員個々のスキルアップを考えながら事業を展開してきたため、当法人が直ちに経営に行き詰まることは現時点では無いと考えている。しかしながら地方ではアルバイト等の不安定な仕事をしながら創作している実演者が多く、生活のために創作そのものをやめてしまう人が増加するのではないかと考えている。今回の事をあえて前向きに捉えれば、新しい表現方法が生まれ、新しい芸術となるかもしれないと考えたり、個々の生活で何となくしていた映画鑑賞や素敵にデザインされた生活用品をデパートで手に取る事の楽しさを、そこに文化や芸術があったからなのだと感じる機会になればと思う。
- 新型コロナウイルス発生から、これまでの流れにおいて、日本において文化芸術が圧倒的に不要と思われていることが分かりました。趣味として楽しむものだと潜在的に理解されていることを感じ、そこをどう今後取り組んで行くのか、誰が取り組んで行くのかの問題はとても大きいと感じています。今後の活動や日本での仕事の意欲が下がっており、悩んでおります。 個人の活動としては、今社会においてアーティストがどのように必要とされているのかも一度考えなおすいい機会となりました。リサーチを現在進めており、確実に今後世界と関わっていく1つの国として、教育や福祉の視点からも、文化芸術が必要だということはわかってきております。しかし、日本において、そこに対する支援はコロナ以前から微々たるものでした。仕事とすら認められていない扱いです。直接的に経済に絡みにくい、見えにくい為でしょう。そこが、アフターコロナでどのように変わっていくのか、変えることができるのか、そこに個人ができることはあるのか、見続けて動き続けなければならないと感じています。

意見[7/9]

- 無観客で配信するのも、自分がお客さんの立場だったらアリだとは思いますが、それを制作の立場でもお客さんの立場としても楽しめないのはツライです。同じ空間にいるからこそ、感じられる一体感、空気感があります。だからと言って、単に三密を避ける対策をしていけば、、、観客がぼつんぼつんという状態で、生の舞台の醍醐味が伝わるのかも今のところ疑問ではあります。また、演じる種類、内容などによっても、ネット配信に向いているものそうでないものがあると思います。比較的動きの少ないリーディングなどは、向いていると思います。今まで、私がやってきたのは落語会の企画・スタッフなのですが、現実的に会場でお客さんを2m離して座席を作ると数人しか容れられないので全く現実的ではありません。ふと思いついたのは、、、お客さん、演者(演者はビニールカーテン???)やスタッフも含め、全員フェースシールド着用! ?とか(笑)だったら、支援していただけたらいけるかも、なんて妄想してしまいました。お客さんも、安心して来ていただけるような、何かよい解決方法があれば、教えてほしいです。

意見[8/9]

- 詩作の活動 今はまだ表面化していないが、自分が投稿、購読している雑誌の製作が今後遅れていくと思う。売り上げが減った場合、廃刊にならないか心配。ダンサーとしての活動 もしコロナに感染した場合、復帰ができたとして、心肺機能などの身体面のスペックを維持できるか心配。もし機能が損なわれた場合を見越してトレーニングを変えたり新しいダンスジャンルの表現を模索している。また差別などがあった場合、再びカンパニーや劇団に加えてもらえるか未知数。世界のダンスカンパニーが復活できることを祈っている。一方でダンスに対する鑑賞対象としての需要や、在宅から始めるダンスレッスンなど演技者としてのとっかかりがたくさん広まりそうなことに可能性を感じる。風営法などで野外ダンスは規制にあっているが、収束後、法が改められて、屋外での公演やダンスレッスンがまた新しい価値を持って広まることを願っている。イベント(同人誌即売会など) 三密であるフリマ形式でのイベントに対する開催の困難さはこれからレベルが上がっていくだろうと感じる。また紙の書籍というものに対する衛生的な信頼も低下したと感じる。しかし一方で数多くの書籍(特に電子書籍)が無料公開され、知識の啓蒙やメンタルヘルスケアに役立っており、本が有事の際に必要とされる構図は震災、大戦となんら変わらない。新しいイベントを模索していきたい。

意見[9/9]

- 文化と歴史の価値が低下する事は、国の価値そのものの衰退とっております。音楽は娯楽ではなく、「教養」と自国を映す「鏡」です。そして心を繋ぐ世界共通の「言語」です。芸術やスポーツの文化でしか世界は繋がる事ができないし、政界がこれを疎かにしているこの現状は自国を破滅へ導いている事と何も変わりません。国同士を繋いでいるのは政界でも何でもありません。全てのパフォーマーやそれを作り上げる技術等、目に見えない積み上げてきたものへの価値を本来あるべき形に持っていくべく、物理的に可能な支援は全て行うべきであります。努力重ねてきた人間が馬鹿を見る、そんな日本になつてはいけませんよね。我々は政界の人間より努力してきた自信があります。と言うか政界も歩合性や評価性にすれば、国にお金は出てくるでしょう。大した仕事の結果も出せない、人間の気持ち理解できない人らに高額な給与を残す必要は今の日本にはないはず。誠意も覚悟も見えない、結果も残せない時間だけ使うそんな幼稚な人らが、何故我々の生活を脅かすのか。。。悪魔でしょうか？我々はこれからも文化価値の認識を上げ続けます。後世に繋いでいきます。この国の未来の為に。それが文化人の最大限できる取り組みであり、最も価値のある行いだと認識しております。場違いな内容もあり恐縮でした。昨年と同等の収入が毎月皆あれば文句は言わないでしょう。問題のお金の出所は政界の数合わせの人からむしり取ってください。本気で国の事考えて今の仕事してるならそれくらいは当たり前でしょう。